

発行者  
公益社団法人 関西吟詩文化協会

# 公認 華洲会 (広報紙)

発行責任者 会長 山口華雋  
編集責任者 広報部長 竹本瑞鼓



「華」 第69号 発行:平成30年2月8日

### 主な記事

- 2面 新春錬成会 思い出を振り返って
- 3面 振り返って その2
- 4面 振り返って その3 青年部活動
- 5面 華洲未来塾 王維 李白 杜甫
- 6面 H29年度競吟成績・後期昇段
- 7面 故 華洲会主の漢詩を学ぶ 教室紹介
- 8面 即席川柳 他

## 再入会促進キャンペーン実施中

特典：平成30年3月末迄は、入会金の免除と「漢詩詳解」を進呈

### 山口会長 平成30年 年頭ご挨拶



華洲会 会長 山口華雋

今年、戌年です。私は新年祝賀会で戌年のことを話そうとしたら、青年部の皆さんから、今年はワンダフルな年ですよと言われました。今年も皆様と一緒にワンダフルな年になりたいものです。

昨年の華洲会競吟大会の時私は脳梗塞をみなさんに発見していただいて又新しい命を授かりました。(コーヒーを溢した時、「先生おかしから病院で診てもらってください」と言われて、早速診てもらったところ、「もう少し遅れたら死んでたよ」と言われました。皆様のお蔭で又、命を一つ頂きました。この命は華洲会に関西吟詩に吟界にささげたいと思っています。

吟界では、高齢化・吟詠を知らない人の増加などにより会員減少に歯止めがかからないことを嘆いています。ところが華洲会は、昨年関西吟詩の中で二会しかない会員増員表彰を受けさせていただきました。本当に光栄なこと、皆様の大変なご苦労に對し心から御礼をもうしあげるものでございます。

吟界の10年先15年先を考えたとき、大

変厳しくなることは十分予測できます。華洲会の平均年齢は66・8才で(15才以下を除く)支部別に見ても50才代支部は1支部・60才代6支部・70才代11支部であり最も高齢支部79才であり最も若い支部は58才でした。

70才代支部は18支部の内11支部あることは、これから10年先を考えとき何も対策を打たなければ半分以上の支部は消滅していることが考えられます。よって先ず自分の支部を守ってください。それが最も大切なことです。

そこでまず指導者を一人でも養成し分会を増やしていただくことが当面の対策として大変重要であると考え、華洲未来塾の継続を発展させなければなりません。

そして15年後のことを考えると①60才代の指導者養成 ②60才以下の会員の増員 ③教場指導者の交代要員の養成 ④青年部員増員と指導者としての養成等を今実行しなければなりません。皆さんと力を合わせみんなで悩んで今年も楽しく前向きな会にしてまいります。

### 第2回華洲会新春錬成大会華やかに開催 出吟者194名 各支部趣向を凝らす

正月明けの1月8日(成人の日)に大東市民会館2階キラリエホール(大阪・大東市)で第2回華洲会新春錬成会を開催した。



錬成大会の冒頭、山口華雋会長はご挨拶で会員の皆さんに四條畷神社へ参詣した旨を報告するとともに、会員増強策など本年度の指針を力強く示した。

当日は、錬成会に先立ち例年の如く、山口華雋華洲会会長・種田紅鞠副会長・小野華算常任相談役が午前9時に四條畷神社に集まり、神前にて華洲会の繁栄と会員の健康を祈願する

とともに、杉孫七郎作の「小楠公の墓を弔う」を献吟した。

その後、摂社の御庇(みおや)神社前で写真撮影を行い錬成会場に足を運んだ。



錬成会には17支部総勢194名の会員が一堂に会し、映像入りの本格的なミニ構成吟をはじめ、テーマは歴史もの・人生・旅・故郷、盛唐の詩人(李白・杜甫)と幅広い出し物で、終始華やいだワンダフルな時が過ぎた。

その後、懇親会を持ち会員の交流を図った。

【新春錬成吟詠大会】  
各支部、出場の思いを振り返  
ってもらいました



四条暖支部  
杉本時子

ミニ構成吟「三太郎劇場」

川西大和支部 今井彩黎  
マンション「青山分会」は、  
今期の歌「みんながみんな英  
雄」昨年11月は三分会の発表  
会で、剣舞とどじょうすくい  
を取入れ、のれんをアレンジ  
の衣装も作成

風景が合体 うー

△三太郎劇場Vの出来上り  
楽しむをモットーにハーモ  
ニカ伴奏で手作り感、全員参  
加出来る事を中心に作成。  
出演1番という幸運と環境的  
に一言練習不足！時間が押し  
て申し訳ありません。

終了後、即『来年は、もつ  
と早く練習しよな』  
やる気満々楽しい仲間です  
皆さんと  
仲良くな  
るために  
名札があ  
れば♡と  
いう意見  
もありま  
した

詩舞「宝船」



「京都から琵琶湖への旅」

京阪樟葉支部 藤原充晟

企画立案のプロセス」は、  
昨年9月7日実施しました  
「吟詠歌謡研修」をキツカケ  
でした。

素晴らしい中谷将鳳先生の  
「近江湖愁」吟詠歌謡を勉強、  
支部参加者は勿論ですが、未  
参加の方まで、とても好評で  
あり、是非支部の目玉として  
出演したいとの思いを共有し  
今回のテーマにしました。参  
加者が新会員中心の為、中々  
上達しませんでした。数回  
の稽古の末、「精一杯我々なり  
に出せる力を出し頑張ろう」  
との事で発表しました。

企画立案は参加者の自由意  
見を集約した。  
企画の売り・ポイントは、  
当然「吟詠歌謡」の素晴らし  
さを今回広め、  
知って頂く事  
です。

出来栄は  
とても満足で  
きるものでは  
ありませんが、  
今後、教室に  
でも吟詠歌謡



の稽古時間を増やしていく予  
定です。次回はもっと良い(？)  
吟詠歌謡を披露したく思  
っています。

「新春錬成吟詠大会に参加して」

川西北支部 堀江栄子

私は兵庫県  
の猪名川町に  
住んでいます。  
今日は車と電  
車を乗り継い  
で大会に参加  
する為に来ま  
した。  
私は先輩方  
お二人と一緒に連吟を詠いま  
した。



舞台の下で待っている時は  
とても緊張して胸がドキドキ  
して「大丈夫かな」と不安に  
なりました。でも、一緒に出  
吟する先輩方に背中を押され  
緊張もほぐされて心が落ち着  
きました。

舞台上上がるとさっきの緊  
張はなくなつて思っていたよ  
り上手に吟じる事が出来まし  
た。これからも教室で自宅で  
声を上げて練習して上達して  
いく様に努力したいと思つて  
います。

家族と楽しむ吟詠大会

雫詠寺川 岡 紅志

第2回目の「新春錬成会」の  
開催を楽しみにしていました。  
競吟大会とは違い、一緒に稽  
古をしている支部、教室の仲  
間と一緒に作り上げる感じの  
「新春錬成会」は、仲間同士の  
繋がりが少し深くなる様に思  
います。今回の企画意図は、  
家族と一緒に詩吟と関わる切  
っ掛けを作る事でした。青年  
部メンバーでは、詩吟をして  
いない配偶者、子供、孫も舞  
台に上がって貰う為にどうい  
う形が良いのかを課題とし  
「自分達の家族をどうやって  
連れてくるか」...を、奥山先生  
山口先生に相談し、シナリオ  
を作りました。

我々の文化的要素が未熟す  
ぎて、山口先生にほぼ全てと  
言えるくらい意図を残して  
のシナリオ改編を、奥山先生  
に「舞台演出の具体的指示を、  
して頂く結果となり、かえつ  
て手間が掛かってしまったこ  
とや、その結果各  
支部への  
シナリオ  
配布が直  
前になり、  
十分な稽  
古で臨め  
なかつた  
こと、聞  
きなれないフォークソングを  
採用したことなどは、次回へ  
の反省点、改善点としたいと  
思っています。

新年錬成会の出吟にあたり

鳳吟大江支部 吉田鳳裏

去年より上手にできるよう  
地域の文化祭にも今回発表の  
近江の歴史を発表し中谷将鳳  
先生からナレーションのタイ



ミングや吟詠の細やかなご指導の下で教室でも練習を重ね、それなりに出来ると思っていました。発表者が急遽風邪で体調を崩したり、不幸があり欠席が出て発表に不安がありました。何とか頑張り聞いてもらえたと思います。



また、他の支部の映像を用いた方法は非当方も取り入れようと考えミニ構成吟の流れをパーポイントで対応する写真や歌詞吟詩を貼り付け作成しました。音響も25分に中谷先生にプロデュースしてもらい映像と合わせました。

親睦全員参加型  
丸の内中央支部 山下智之  
新人古人老若男女が詩吟をするという一つの目的に向って行う催しは案外に少ないと思う。特に競吟大会で活躍したくても出来ない高齢の方々には舞台上がったの興奮は

意欲を喚起するに充分な機会であると考えます。従ってこういう親睦全員参加型の錬成会はうってつけの場と考えます。



特に感じたのは若者（1歳〜50歳台）が張り切って引つ張っていく姿勢、気概が皆に伝わっていく過程で参加者も奮い立たせることがあれば一つの転機になるかも・・・。

丸の内支部はじめ精一杯演じていたと思う。もっとお祭りの雰囲気を含め、引つ込み思案の方も年一回の舞台上に立つての興奮を味あわせてあげたいものです。

女性各自が楊貴妃に  
ソレイユ支部 中野亮瑠  
ソレイユ支部は支部設立が新しく会員は殆ど女性で新人です。

此の度、錬成会で李白をテーマに取り上げる事になり、清平調詩一、二、三、を女性各自が楊貴妃になった気持ちで吟じてみることにしました。



練習を通じて巻頭言の中の事業の詩仲の景、詩中の情と言う意味が少しわかってもらえたように思います。

企画、作成の参加者、坂本亮綜、中野亮瑠、伊藤敏夫。結果には満足しています。

「春を求めて」  
野崎観音支部 嶋崎樹里

我が支部は、三分会合同での参加でした。物語にするには難しく、個人で出来るものと考え、春夏秋冬シリーズにしようとなり、今回は「春」、気持ちが出るものになりました。童謡・和歌・吟詠歌謡・漢詩に俳句と様々とり入れたことで変化が出て、楽しく出来たように思います。

新年での吟詠に緊張しま



叱咤激励を楽しみに  
OKR北吟会 秀高誠  
華洲会新春錬成吟詠大会で私たちが吟じた変調武田節（武田節、川中島、九月十三夜）、楽しんでいただけましたか。OKRは大阪北ロータリークラブの略で、毎月2回、田中尚毅先生に会うのを楽しみにしている11名です。今年も先生の温かい指導と叱咤激励を楽しみに、そして詩中の景、詩中の情を想い、詩中の人に同化できるように全員で吟道に励みます。



出来栄えまます  
秋桜分会 岡部豪洵

本日の出来栄えまます  
教本のABを終え、D教本和歌俳句を習い始めて、錬成会に向けて練習を重ねて参りました。太田道灌（和歌入り）九月十日（和歌入り）の絶句を出吟いたしました。起句承句の間に和歌を入れ、転句結句と続けると、物語の意味の繋がりが出来ると思い嬉しくなりました。



今後分会の吟題となればと思っております。本日の出来栄えはまますますかなと、自画自賛です。

この新春錬成吟詠大会は、いつも聞けない大先生方の朗々たる吟も聴く事が出来て大変楽しみにしております。

楠の里支部  
「贈汪倫」  
を吟詠



多様性が詩吟の活性化に繋がる  
私達は学園支部、四条楠公支部、燐吟支部の三支部合同で行いました。

企画構成は深町先生が作成したもので、中々格調の高い



ミニ構成吟だったと思っております。

独吟・合吟の練習は多少が、舞台上の立ち位置とかマイクの使い方の



練習はしていなかったもので、当日多少の戸惑いがあり、次回からはもう少し総合的な練習が必要だと思いました。

各支部も中々多様性のある構成をしており、この多様性が詩吟の会の活性化をはかり存続に繋がっていくのだと改めて思いました。

練成大会 改めて感動

学園支部 三谷智恵子

新春早々楽しい企画を下さり、各支部それぞれ新しい発想で企画され今迄と違った楽しい大会でした。若い人も多く活躍して頂き活気がありました。私達学園支部は深町華燁先生の企画で「詩仙詩聖の名詩をたずねて」と題して李白杜甫の詩を吟じさせて頂きました。漢詩の名詩を学び詩文の意味を知り作者の「心」を感じその背景も感じ

改めて感動させて頂きました。

李白と杜甫

四条楠公支部 江崎一吉

平成30年新春練成吟詠大会に参加を輝吟支部・学園支部・四条楠公支部の3支部合同での参加と成り「李白と杜甫」を深町華燁先生の企画で行うことになり、今までの単独での吟詠とは違ったことは一つの勉強と成りました。四条楠公支部も一名会員が増えて、明年は一緒に参加出来る事を祈っています。

今回の練成会は、青年部が舞台・進行・音響など裏方を支えて実行された。

また、特に、練成後の懇親会のアトラクションにおいて「浦島太郎」の披露があり、練りにねった趣向に会場がパツと楽しい雰囲気になつた。出演者と参加者みんなが一体になった瞬間で、次につながるエネルギーを確信できた。



い合青年部  
で進め  
る間  
合  
の  
確  
定  
的  
司  
会  
を  
進  
め  
る  
ス  
タ  
フ



会場を盛り上げた青年部



浦島太郎



名槍日本號

スライドで：



開会式 国歌斉唱

青年部活動

【Xmasライブ、大盛り上がり！】

雫詠寺川支部 秋月俊也

恒例となつたXmasライブが、12月17日(日)に門戸厄神「じゅとう屋」で開催されました。

当日は真冬とは思えないほどの暖かい日射しで、イベントの成功を予感させました。午前11時より青年部有志が会場に集い、準備にあたります。慌ただしく過ごしているうちに、あつという間に開場、この日を楽しみにしていただく方々が次々に席につかれます。



開始となつた午後1時。まずは、ご当地の厄神太鼓で力強い演奏を披露頂き、続いてあすなる腹話術協会さんによるお人形との楽しい掛け合いに、温かい雰囲気包まれます。お次は「みのる・ほそる」師匠の漫才。今年新作での

登場で、開場を爆笑の渦に巻き込みました！個人的にはM1グランプリに出場して頂きたいところですが(笑)。このあと、ドジョウすくいのコミカルな動きに癒され、いよいよ青年部による超ミニ構成吟「超短編忠臣蔵」を披露しました！入口寛都君の剣舞はさらに鋭さを増していました！



あとは、サンタさんのプレゼントを待つばかり……「清しこの夜」あわてんぼうのサンタクロース「赤鼻のトナカイ」を合唱していると、何と本当にサンタさんが来てくれました！サンタさんからお菓子を頂き皆自然と笑顔になりましたよ！

そして今年山口会長もご多忙の中を激励に駆け付けて下さり、会場内もテンションMAXになりました！一日ずつと楽しいイベント、今年も一般企業の協賛を頂き、着実にイベントの知名度が高まっていることを実感しました。当日参加された皆さん全員(計92名)に感謝です。

華洲未来塾

講師 稲田菫胤 先生

盛唐の三大詩人 王維 李白 杜甫

漢詩文に見えない作者の

秘められた心の叫びを探る

平成29年10月31日

平成29年度第3回目の華洲未来塾をアステ川西6F市民プラザにて参加63の参加を得て開催した。講師は総本部副会長宗範稲田菫胤先生。

講演テーマは「盛唐の三大詩人、王維・李白・杜甫」。稲田先生には昨年の歴史講座「明治維新」に引き続いて「講演。

王維 (699~761)・李白 (701~762)・杜甫 (712~770)は、盛唐の同じ時代に生きた。

一、秘められた心の叫び  
「元二の安西に使いを送る」  
渭城の朝雨 輕塵を 洒す  
客舎 青青 柳色 新たなり  
君に 勸む 更に 盡せ 一杯の酒  
西のかた 陽関を出れば故人  
無からん

渭城―西方に旅立つ人を送る由来となった所。  
折楊柳の曲―漢時代以来の別れの曲。当時の習慣で柳の枝を折りとって旅行く人に手

渡した。

更に盡せ一杯の酒、静かな朝の別れ

・送別の詩の中でも最も民衆に親しまれた秀作。

・永遠の別れで寂しい悲しいはずなのに、感情語が一字も使われず秘められた巧みな表現法「更」がよく効いている。

・渭城から陽関までの距離、直線で1500キロ。尋常の別れでない。  
この歌は、別名「陽関三疊」とも言われ、最後の句を三度繰り返して歌われていた。

日本でも、明日香における「相聞歌」に、感情語が使われず、巧みな表現があるので紹介する。

大津皇子(おおつのみこ)  
あしひきの 山の雫(しずく)に妹待つと われ立ちぬれる  
山のしずくに  
石川郎女(いしかわのいらつめ)  
吾を待つと 君が濡れけむ  
あしひきの山の雫に ならま

しものを

二、王維は詩仏といわれた。

自然詩人、陶淵明(365年以前)の田園詩人の申し子とも。幼少より詩・画・書・音楽の才能を発揮し、15歳にして官僚の道を志し都に上がる。21歳の若さで進士に及第。たちまち社交界の花形となる。

飲酒二十首 其の五 陶淵明

庵を結んで人郷に在り  
而も車馬の喧しき無し  
君に問ふ 何ぞ能く爾るやと  
心遠ければ地自ずから偏なり  
菊を東籬の下に採り

悠然として南山を見る  
山氣 日夕に佳く  
飛鳥 相ひ与に還える  
此の中に真意有り  
弁せんと欲すれば己に言を忘る

春 曉 孟浩然  
春眠曉を覚えず  
処々啼鳥を聞く  
夜来風雨の声  
花落つること知んぬ多少ぞ

淵明が生きた時代に於いては、彼はあまり評価さなかつたが、三百年を経て淵明の詩は孟浩然に受け継がれて花開いた。やがて淵明の名声を死後三百五十年の歳月をこえて

漢詩文学史上において不動の地位に押し上げたにはまぎれもなく王維であると言えよう。

西安から50キロ東南にある終南山の一角網川荘での12年間の生活。

ここは、かつて初唐の宮廷詩人、宗之門の広大な別荘地。この広大な別荘にある二十の景勝の中より「竹里館」「鹿柴」がうまれた。

竹里館 王維  
一人座す 幽篁の裏  
琴を弾き 復長嘯  
森林人 知らず  
明月 来つて 相照らす

鹿 柴 王維  
空山人を見ず  
但人語の響きを聞く  
返景 森林に入り  
復 青苔の上を 照らす

晩年、思いもかけぬ安祿山の乱に遭遇。王維の傷ついた心は癒えることなく次第に佛の道へと救いを求めてゆく。仏教を人生のよりどころとする王維。後世人は彼を詩仏と呼ぶようになる。宮廷に在りながら俗世間とのかかわりを厭い、自然とともにその生涯を終えた。

三、奔放の詩人 李白

詩仙り李白、天衣無縫を詠う。

出生地は西域の條支(じょうし)(異民族)と四川省の清蓮郷(漢民族)との2説と言われているが、どちらと決めるのも確実な根拠はない。

いずれにしても、歳頃に蜀に移り住み、そこで少年時代を過ごした。

仙人世界に憧れた青年時代には、有名な道教徒、東嶽子を訪ね岷山にこもったり、戴天山の道士らと交遊、道教の聖地とされる峨眉山にも登り修行した。

初めて故郷を出る李白の思いと秋の月。

峨眉山月 李白  
峨眉山 月半輪の 秋  
影は平羌江の 水に入りて流る  
夜 清溪を發して 三峽に向こう  
君を思えども見えず 渝州に下る

・生涯忘れ難い峨眉山に掛かる月  
・大望を抱き蜀を後にする李白25歳。終生故郷に帰ることはなかった。

その後の李白の生涯は、旅に始まり旅に始まるほどにその足跡は中国全土に及ぶ。



競吟成績 29年度春

吟剣大阪北地区(4月2日)

一般二部

2位 黒川亮心(京阪樟葉)

一般三部

6位 山下心鼓(丸の内中央)

11位 竹本瑞鼓(丸の内中央)

吟剣大阪大会(5月14日)

一般一部

5位 嶋崎樹里(野崎観音)

5位 堀 香織(川西大和)

5位 入口みどり(雋詠寺川)

一般二部

優勝 黒川亮心(京阪樟葉)

5位 中村尚瑛(川西北)

一般三部

12位 岡島彩鼓(川西大和)

16位 竹本瑞鼓(丸の内中央)

5位 箱田 稔(川西北)

5位 山下心鼓(丸の内中央)

吟剣滋賀県大会

二部

5位 岸場鳳鶯(鳳吟大江)

三部

5位 吉田鳳裏(鳳吟大江)

5位 上阪鳳揚(鳳吟大江)

府選シニア・シニア大会(5月28日)

5位 岡島彩鼓(川西大和)

5位 坂根英生(川西大和)

滋賀県詩吟連盟

吟士権者決定大会(6月18日)

1部 中谷鳳昇(鳳吟大江)

大阪府連決勝大会

一般一部(6月25日)

6位 今井美津子(川西大和)

15位 嶋崎樹里(野崎観音)

5位 山下智之(丸の内中央)

5位 堀 香織(川西大和)

入賞 末延祥雋(雋詠寺川)

指導者の部(7月9日)

5位 黒川亮心(京阪樟葉)

入賞 岡島彩鼓(川西大和)

入賞 竹本瑞鼓(丸の内中央)

入賞 藤原亮成(京阪樟葉)

滋賀県詩吟連盟吟士権者決定大会

二部(7月9日)

三位 宇野暉麗(勢多)

入賞 寺田将暉(勢多)

入賞 上坂鳳揚(鳳吟大江)

吟剣近畿決勝大会(8月6日)

1部

入賞 堀 香織(川西大和)

入賞 嶋崎樹里(野崎観音)

2部

6位 黒川幸子(京阪樟葉)

3部

入賞 竹本 勇(丸の内中央)

愛国詩吟連盟シニア・シニア決勝

6位 岡島美智子(川西大和)

関吟大阪地区連合会

第1部予選(8月20日)

初級 上位入賞 決II決勝

今井紀子(川西大和)決・全

上野 敦(川西豊友)決・全

小笠原邦彦(雋詠寺川)決・全

川田麻衣子(雋詠寺川)決・全

坂根英生(川西大和)全国

西川慶子(雋詠寺川)全国

中村久美子(ソレイユ)全国

上級 上位入賞

奥山久美子(雋詠寺川)決・全

中野宣子(ソレイユ)決・全

岡進(雋詠寺川)決・全

東野明(川西北)全国

嶋田綾子(雋詠寺川)全国

中野能孝(多田東)全国

福田和美(川西大和)全国

師範代 上位入賞

岡部幸子(多田東)決・全

中村陽子(多田東)決・全

仲元幹雄(多田東)全国

片山節子(多田東)全国

中野 五学園(全国)

瀬下武士(川西豊友)全国

準師範 上位入賞

堀 香織(川西大和)全国

嶋崎樹里(野崎観音)決・全

第2部予選(8月27日)

指導者 上位入賞

竹本瑞鼓(丸の内中央)決・全

中村尚瑛(川西北)決・全

岡島彩鼓(川西大和)全国

今井彩黎(川西大和)全国

滋賀県連合会 二部指導者級

指導者級(和歌の部優勝)

岸場鳳鶯(鳳吟大江)全国

師範代 優勝

中谷鳳昇(鳳吟大江)全国

準師範 優勝

宇野暉麗(勢多)全国

師範以上 優勝

寺田将暉(勢多)全国

関吟大阪地区連合会決勝(11月3日)

初級

5位 小笠原邦彦(雋詠寺川)

入賞 川田麻衣子(雋詠寺川)

入賞 今井紀子(川西大和)

準師範

3位 嶋崎樹里(野崎観音)

関吟全国新人中間層(11月12日)

新人の部

入賞 日高みさ子(野崎観音)

入賞 東野 昭(川西豊友)

入賞 中西民夫(川西大和)

初級の部

5位 上野 敦(川西豊友)

入賞 川田麻衣子(雋詠寺川)

入賞 今井紀子(川西大和)

入賞 小笠原邦彦(雋詠寺川)

入賞 西川慶子(雋詠寺川)

入賞 坂根英生(川西大和)

上級の部

4位 嶋田綾子(雋詠寺川)

5位 奥山久美子(雋詠寺川)

和歌の部

3位 坂根英夫(川西大和)

入賞 小笠原邦彦(雋詠寺川)

入賞 西川慶子(雋詠寺川)

入賞 奥山久美子(雋詠寺川)

関吟全国指導者級(12月10日)

師範代

入賞 仲元幹雄(多田東)

入賞 片山節子(多田東)

準師範

優勝 堀 香織(川西大和)

準優勝 嶋崎樹里(野崎観音)

師範以上

4位 今井美津子(川西大和)

入賞 岡島美智子(川西大和)

平成29年度後期昇段者

▽十段辻義政(兎泉)(京阪樟葉)

▽九段岡森泰造(鵬雋)(雋詠)

伊賀(後藤静枝(燿簾)(燦吟)▽)

八段今井美津子(彩黎)(川西大和)

和)嶋澤正彦(俊雋)(雋詠伊賀)

▽七段橋本久美子(煌雋)(雋詠)

伊賀)堀香織(彩刻)(川西大和)

▽六段谷口綾子(斐雋)(雋詠京)

都)▽四段石黒妙子(叡妙)(多)

田東)宮里義一(叡義)(同上)岡

進(紅志)(雋詠寺川)木村士郎

燿交(燦吟)加川秀子(雋詠京)

都)五十棲俊次(同上)大橋秀

敏(川西大和)福田和美(同上)

▽三段長田シズコ(多田東)小

谷茂雄(同上)河田一彦(同上)

福島正己(同上)竹田和哉(同

上)磯田孝潤(鳳吟大江)中山

清和(清和台)河田剛(川西大

和)飯田宏(同上)坂根英生(同

上)鎌田一徳(雋詠伊賀)川田

麻衣子(雋詠寺川)小笠原邦彦

(同上)松村むつみ(同上)長野

綾子(同上)西村恵子(同上)▽

二段箱田慎也(川西北)西川慶

子(雋詠寺川)瓦林翔太(同上)

岡本好見(同上)秋月俊也(同

上)今田芳美(雋詠伊賀)朝田

由治(多田東)阪田裕規(多田

東)秀高誠(同上)設楽貞樹(同

上)幸盛正(川西大和)山内春

好(同上)▽初段平野敏弘(京阪

樟葉)坂幸子(同上)今井紀子(

川西大和)今井豊治(同上)中

西民夫(同上)荒川一聡(雋詠

寺川)▽三級梶谷永(丸の内中

央)前田玲音(同上)甲斐加恋(

同上)

会主 三浦華洲先生の自作漢詩を学ぶ

年頭言志 三浦華洲

鶏鳴傳曉入三元〇

一転東風旭旆翻〇

老大骨奇心尚壯

振興吟道注精魂〇

【字解】

鶏鳴〇にわとりが鳴くこと

伝曉〇よあけを知らせる

三元〇元日を言う。年・月・

日の始めの意

一転〇がらりと変わること

東風〇春風

旭旆翻〇日

の丸の旗が

ひるがえる

老大〇年を

とる。また、

その人

骨奇〇奇骨

のこと。常

人と異なつ

た風変わり

な性格

振興〇奮い

起こして盛

んにすること

と

注グ〇もつ

ばらその方向へ向ける。集中する。力をそそぐ。

【意解】

鶏が鳴いて夜明けを知らせ、元日を迎えた。

空気は一変し、春風が吹き日の丸の旗が翻っている。

私は少壯を過ぎた「としより」で、常人と異なつた風変わり

な気性であるが、気持ちは今も尚、充実していて旺盛である。

これからは更に、吟詩の道に奮い起こして、盛んにすることに集中して、力を注いで行きたい。(先生七十才の作)

年頭志を言う 三浦華洲

鶏鳴 曉を伝えて三元に入り

一転すれば 東風 旭旆 翻る

老大 骨奇にして 心尚 壮なり

吟道を 振興して 精魂を 注ぐ

【漢詩の広場】

新年書感 深町 華輝

東 韻

玉曆廻来度 惠風

陽和天地瑞 雲紅

墨華染紙 拜年句

物我相忘 卜 歲豊

玉曆 廻り来りて 惠風 度る

陽和 やかに 天地 瑞雲 紅なり

墨華 紙を染めて 拜年の 句

物我 相忘れて 歳豊を 卜せん

【教室紹介】

篤詠伊賀支部の向かうところは？

篤詠伊賀支部支部長 嶋澤俊雋

篤詠伊賀支部は三重県伊賀市において3教場で活動しています。

伊賀市は人口約9万人弱で松尾芭蕉生誕地であり、最近

は忍者ブームもあり「忍者市」を標榜して全国的に売り出し

中です。さらに、昨年以上野天神祭りがユネスコの世界文化

遺産に登録されるなど小京都の雰囲気のある伝統文化の匂

いする町です。

少子高齢化の波は当地のよ

うな地方都市では顕著で、われわれの詩吟活動ももろにその影響を受けています。3教

場のうち木曜教室は当初ペテラン組として発足し現在でも

山口華雋先生に月2回直接指導いただ

いております。火曜教室は当初初心者

を対象に今井先生、故松村先生、

町先生、先生方により指導を受けていま

した。現在では皆段位も進み

ベテランの域に達しています。しかし、

退会者が続き、最盛期に比べ

会員数は半減しています。5年前に開設した

が台教室も同様です。高齢化の影響は

指導者にも及んでおり、先行

き教場の維持が不透明になっています。

年一回伊賀市の他の会派と「吟の集い」

を開催していますが、他会派においても

また然りです。当地の人口、年齢構成

等基本的な要因が背景にあり、会員増はな

かなかどっていません。高齢者の入会は

ん。昨今、会員の半数以上が

競吟大会に出場しません。何

故なら会員数減から出場者が

少なくなり入賞者の常連化が

みられ、入賞の可能性が少な

いことが原因かと思われま

す。かかる状況下において、今、

我々に何が出来るのか？

文化としてその良さをしっ

かり後世に伝える意図が必

要な時期に既に入っていると

思われます。

会員個々が詩吟の良さを十

分に楽しみ、詩吟を通して人

的交流を促進し、友達を増や

していく。将来的には学校の

クラブ活動に詩吟部の設置を

働きかけてそれを支援してい

くことなどこの伝統文化の

来の糧も必須ではないかと思

います。

これか

ら当支

部がど

のよう

な方向

に向か

うのか？

これが

現在当

支部の

直面

している

命題で

あります。

当面は

教室の

再編成



山口先生を囲んで

即席川柳課題「吟詠」

新春錬成吟詠大会当日、吟詠鑑賞の合間に47首の投稿を頂きました。詩吟への取り組み・喜び・悩みが垣間見えます。

〔錬成会プログラムの出吟順に掲載〕

① 普段より

ひとがんばりの 出番かな

② こえならし

ふくしきききゅうしぎんする

③ 年おいて

人間みがついて ぎんみがく

④ 「もつと出せ」

氣ばれば声は 下から出

⑤ 土佐からの

奥の細道 きいてみや

⑥ 錬成の

吟にのせたる 春の風

⑦ 初春の

絶句も誤読も ぼけ防止

⑧ うすはげが

・ 篤詠寺川高知 末延喜美子

⑨ 山を越え

・ 篤詠寺川高知 末延喜美子

⑩ 右左り 両手にはなの 旅車

⑪ ぼけあほも

・ 多田東支部 金子恭子

⑫ 松の内

・ 多田東支部 成田研一

⑬ 目立たない

・ 多田東支部 谷 和代

⑭ 我が吟は

・ 多田東支部 鼓友池田分会

合吟唄い 声も出す  
・ 篤詠寺川高知  
松村むつみ・清藤礼次郎

⑬ 華洲会  
・ 栄光かけ橋 新春集い  
・ 鳳吟大江支部 澤田鳳蘭

⑭ 老いてなほ  
・ かくしやくとして 祝吟す  
・ 丸の内中央支部 岡崎正秀

⑮ めでたさや  
・ 錬成会で、もう詰まる  
⑯ 舞台立つ  
・ 伴奏打ち消す 鼓動かな

⑰ 詠いより  
・ 着物姿に 惚れにけり  
⑱ 唸(うな)れども  
・ マイク不通に 自力知る

⑲ 丸の内中央支部 中根達博  
⑳ 「おちついて」  
・ 孫に声かけ 今日我が身

⑳ 華やぎて  
・ 丸の内中央支部 中西 彰  
㉑ 笑顔はじける 初吟会  
・ 清和台支部 森 蘭豊

㉒ 初春や 音吐朗朗 錬成会  
・ 清和台支部 常村一則  
㉓ 吟詠は  
・ いくらやっても 良くわからん

㉔ 吟のおかげ  
・ 多田東支部 遠藤尚豪  
今日も元気で 練習に!!

⑳ 松の内  
・ 多田東支部 金子恭子  
詠い始めの 吟の会  
・ 多田東支部 成田研一

㉖ 目立たない  
・ メンバーもいる 競吟会  
㉗ 我が吟は  
・ 自己満足の 他はなし

㉘ 昨夜ふる  
・ 今日舞台で あがりぎみ  
・ 多田東支部 辻 總叡

㉙ 白寿まで  
・ 元氣な声で 詩を吟ず  
⑳ 連吟で  
・ 皆の呼吸が ぴったんこ

㉚ 華洲会  
・ 老若男女が 詩を吟ず  
・ 多田東支部 宮里叡義

㉛ 長かりし  
・ あと一割の 短縮を!  
・ 多田東OKR分会 設楽貞樹

㉜ あらたまに  
・ 聞ける喜び 良き吟詠  
・ 多田東OKR分会 朝田由治

㉝ 新春、歌いまくれや 吟詠歌  
・ 多田東OKR分会 福島正己  
㉞ 今さらに  
・ 詩吟は喉にいいねと 友は言う

㉟ 腹おさえ  
・ 腹式すれど 声は出ず  
㊱ 吟の道  
・ 解る頃には 声帯弱る

㊲ 我がナマリ  
・ 吟ずる毎に じやまをする

㊳ 主いわく  
いびきは8本 吟5本  
7、8本  
出そうと 頭(こうご)上を向く

㊴ 上を向いても  
声は出ないと 指摘され  
㊵ 合吟は  
抑揚なければ ご詠歌似

㊶ 今の世に  
元氣いただく 吟の声  
㊷ 会長  
笑顔にわれも華はな咲かそ

㊸ 転句まで  
・ 輝吟支部 深町華燐  
㊹ 絶好調 結句でコケル  
・ 絶好調 結句でコケル

㊺ 初笑い  
・ 笑いは腹式 呼吸なり  
㊻ しぎんして  
はらにせなかに くうきいれ

㊼ 詠み人しらず?  
・ 詠み人しらず?  
・ 詠み人しらず?

㊽ 佳作投票実施 各自3首推  
・ 薦番号を広報迄 締切3月末

㊾ 編集後記  
・ 一年のスタートです。  
・ 会訓「一生初心」の実践。  
・ これがなかなか出来ません。  
・ 目標を定め、一日いちにち、  
・ 肩の力を抜いて、楽しみながら  
・ 結果を出したいものです。  
・ 「詩吟を次代に繋ごう」

㊿ 講演内容  
・ 関西吟詩本部で講演  
・ 篤詠寺川支部  
・ 園部奎雋先生が

平成30年度 昇格課題詩 関西吟詩文化協会

区分	番号	新教本等	旧教本	吟題	作者
師範代	1	A3-86	A27-2	蘇臺覽古	李白
	2	A3-91	A29-2	感事	千道
	3	A3-97	A32-1	松	宮崎東明
	4	A3-107	A36-1	秋思	張籍
	5	A3-113	A38-1	山中問答	李白
	6	A3-117	A39-2	凱旋	乃木希典
	7	A3-125	A42-2	京都東山	徳富蘇峰
	8	A3-129	A44-2	夢観	細井平洲
	9	A3-137	A67-2	秋思	許渾
	10	A3-140	A67-5	八幡公	頼山陽
準師範	1	B1-2	B1-2	鳳凰臺	李白
	2	B2-1	B2-1	黄鶴樓	崔顥
	3	B3-3	B3-3	萬歲樓	王昌齡
	4	B6-3	B6-3	九月十五夜	菅原道真
	5	B16-2	B16-2	遊山西村	陸遊
	6	B31-1	B31-1	簾王閣	王勃
師範	1	C1	C1	代悲白頭翁	劉廷芝
	2	C3	C3	樵津渡吟行	宮崎東明
	3	C5	C5	華嚴瀑	小野湖山
	4	C15-1	C15-1	白虎隊	佐原盛純
	5	C17-2	C17-2	曾我兄弟	松口月城
	6	C26-2	C26-2	幻瀑洞	広瀬旭莊
	1	D5-1	D5-1	荒磯の	徳川光圀
	2	D5-2	D5-2	茂りあふ	若山牧水
	3	D5-3	D5-3	しらしらと	石川啄木